

## ブルゴーニュ大学への協定留学 月例報告書 (10月分)

留学先大学：ブルゴーニュ大学

氏名：奥山海

### はじめに

留学が始まってから1ヶ月が経ちました。この期間、様々なことを経験しました。

### 生活について



突然現れた蚊

日本の10月は、だんだんと寒くなっていく季節で、それに伴って虫の不活発になっていきますが、フランスだと、どうやらそうではないようです。そう思ったのは、蚊を発見したからです。フランスの蚊は寒さに強いのか、それともフランスはまだまだ「暖かい」季節だからなのかわかりませんが、いずれにしても日本では考えられないようなことが、フランスでは当たり前ということを知る度に、いつも驚かされています。

### 旅行について - リヨン編

10月30日土曜日に、学校が主催の遠足でリヨンに行ってきました。リヨンはフランスの中で、3番目に大きい都市で、私が留学しているディジョンから、バスで3時間ほどの位置にあります。

リヨンでは、フルヴィエール大聖堂に行きました。この大聖堂は、丘の上に立っており、リヨンの街中から、その存在を感じることができます。フルヴィエール大聖堂の歴史は、14世紀の時代から始まります。当時のヨーロッパでは、ペストという感染症が流行していました。そして、1643年にその流行はリヨンにもやってきました。人々は、現在、大聖堂がある場所に、聖母マリアを捧げ、祈りを行いました。その結果、ペストの流行は収まって行き、そのことに感謝したリヨンの人々は、1643年に小さな教会を建てました。



フルヴィエール大聖堂



ルイ14世の騎馬像と、  
その奥に見える大聖堂

また、1870年には普仏戦争で、プロイセン軍がリヨンに攻めてきた時に、リヨンの人々は、再び聖母マリアに祈りを捧げました。その結果、プロイセン軍が攻めてくることはありませんでした。そのことに感謝したギヌリヤク大司教は、1872年から建設を始め、1896年に、現在のフルヴィエール大聖堂を完成させました。

現在も感染症の流行が起こっていますが、ここでは聖母マリア様が守ってくれている、そんな気持ちになりました。

## 今月の失敗 - 病気編

10月7日金曜日の夜、喉に違和感を感じました。疲れているのかと思い、その日は早めに寝ましたが、翌日、熱が出てしまいました。週末は、日本から持ってきた解熱剤を飲みながら、ずっとベッドの上で過ごしました。10月10日月曜日、熱はひいていましたが、喉の痛みは悪化していました。そのため学校はお休みして、その日も一日中安静にしていました。11日火曜日、一向に治らない喉の痛みに痺れを切らし、病院に行ってみることにしました。大学で加入していた保険会社（Emergency Assistance Japan）のサポートを受け、円滑に病院で診察することができました。

ずっと風邪だと思い込んでいたためにショックは大きいものでした。どうやら医者によると、私はコロナウイルスに感染しているとのことでした。日本ですら、コロナウイルスに感染したら、億劫になりそうな手続きがあるというのに、ましてやフランスで感染するなんて、という気持ちでした。私は、この経験から日本に留学している外国人留学生や日本に在住する外国人の気持ちを、身をもって理解することができたように思いました。

コロナウイルスに感染してしまった私は、医者から処方された薬の服用と、7日間の隔離を経て、復帰することができました。サポートいただいた方々に感謝の念を抱きながらも、やはり反省も必要でした。フランスでは多くの人がマスクをしていません。しかしながら、自らできた感染対策、手洗いやうがいをおぼえていたように思います。今後、病気にかからないよう、自らできる感染対策や体調面を気にしようと心がけるきっかけとなりました。



示された陽性反応

## おわりに

留学開始から1ヶ月が経過し、フランスの文化や生活に慣れてきました。留学開始当初は、有りとあらゆることに対して、恐怖心を持ち、部屋に籠りがちになっていましたが、今では、自分から積極的にそれらを経験するようになりました。この調子で、留学を楽しみたいと思います。